

令和7年度 支えあいのまちづくり協議体 情報交換会議事録

「支えあいのまちづくり協議体」は、中央区在住・在勤ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合うことを目的に、令和2年度より京橋・日本橋・月島の3地域ごとに話し合いを重ねています。今回、各地域のこれまでの議論や取り組みを共有することによる今後の取り組みの推進と、顔の見える関係づくりを図るため、3地域合同の情報交換会を実施しました。

1. 実施日時

令和7年11月5日（水）9:00～11:00

2. 出席者

- ・3地域の支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）
リーダー・サブリーダー 6名（各地域2名ずつ）
協議体メンバー 1名（日本橋地域）
 - ・第1層生活支援コーディネーター 1名
 - ・第2層生活支援コーディネーター 5名
- （陪席） 高齢者施策推進室高齢者福祉課高齢者活動支援係 2名

3. 内容

- ・出席者紹介
- ・各地域でのこれまでの取組報告（各資料参照）
- ・質疑応答
- ・グループに分かれて意見交換

4. 取組み報告

・京橋地域では、高齢者の課題発見の場として「ゆるっとつながるサロン」を3月・8月に実施。「ゆるっとつながるサロン」は継続して行っていく。サロン活動を行っていく中で、高齢者が外出するきっかけとして「テーマ設定」が大切ということが総意として挙がった。次回以降のサロンのテーマについて考え、広報紙「きらきらいふ」で年間スケジュールなどを掲載していく予定。「助け合いの仕組みづくり」を最終目標とし今後もどのような取り組みが必要なのか、メンバー間で模索していきたい。

・日本橋地域では1人で買い物をしている高齢男性が地域内で多く見られることにフォーカスをし、管理栄養士に講師をしてもらい「食べながら学べる簡単レシピ」と題したイベントを開催。また、今後は昨年作成した「歩いてつながる 浜町エリアマップ」について地域住民から挙がった声を集約し、エリアマップを活用したイベントについても検討。ターゲットを変えたイベントのシリーズ化、他地域（浜町以外）でのイベントの開催、近隣住民に役割を担ってもらう企画（日本橋地域の施設の案内など）について考えていきたい。

・月島地域では、広報紙「となりぐみ」の発行とスマサボまつりの開催を継続。「晴海おでかけマップ」については、協議体メンバーでまち歩きを実際に2度行い、メンバー間で街歩きの感想を共有。おすすめスポットや休憩できる場所、自動販売機なども落とし込み、晴海を知らない健脚の高齢者や区外から転入してきた高齢者の外出のきっかけづくりとする。年度末までには完成を目指す。

5. 情報交換

●社会資源

- ・京橋地域には町会の方が力を入れて運営している喫茶店、自主的にサロン活動をしている洋服のセレクトショップなどがあるとのこと。他にも個人商店や路面店など地域に根付いた「隠れた社会資源」があるのではという意見も。

→潜在的な社会資源の中には既に高齢者の居場所になっている場があることも想定され、そのような居場所とつながりを作ることで地域の高齢者の現状や課題について知ることができる機会にもなると考える。また、本協議体の目的に対し理解を示してくれる社会資源があれば、新たな協力先の1つとしても期待ができる。

- ・日本橋地域・月島地域で作成しているエリアマップにも、地域の高齢者が利用できるような社会資源や認知症センターがいる店などを詳しく落とし込んだ方が、より高齢者が外出するきっかけにもつながるのではないか。

●情報発信

- ・ターゲット層が若年層～中年層であれば、Facebook や Instagram、Twitter を始めとした SNS 媒体での情報発信が有効であるが、高齢者がデジタルで情報をキャッチするのは個人差があり、限界があるという意見も上がる。

→紙媒体で情報発信することでより多くの高齢者の目に留まると思われるため、広報紙やエリアマップなども紙媒体で発行することで手に取ってもらえるのではないかというメンバーが多数。また、地域内の掲示板や集合ポスターを見て、各種情報を把握している高齢者の数も多く見受けられるため、有効的に活用していきたい。

- ・日本橋地域の単発イベントや京橋のサロン活動など共通して、高齢者（特に男性）が興味を持てるようなテーマ設定が外出するきっかけづくりとして大切になると考える。

→メンバーの中には運動系や栄養系などが比較的高齢者の興味やうけが良いと感じる人も。

- ・イベントやサロンを開く際に、準備に手間取り広報にあまり時間をかけられなかったという反省もあった。

→担当地域内の町会や民生委員、関係機関などに早期から協力を仰ぐほか、高齢者がよく足を運ぶ場所についてもメンバー間で話し合い、チラシの配架が可能であるのか聞くなどの工夫が必要になる。

●高齢者の居場所について

- ・ラジオ体操など早朝の活動に参加する高齢者の数が多いが、午後と比べ、午前中は病院などに通っている人も多いためサロンの参加者が少ない。

→そもそも中央区は高齢者数に対しての高齢者の居場所や活動が多く、飽和状態ではないかという意見も出る。そのため、独自性をもったプログラムなどを考えることが参加者を確保することにつながるのではないか。

- ・一方でデイサービスの閉所なども目立ち、日中の居場所としてデイサービスを利用していた高齢者の外出する機会が減少しているのではないかという意見も出る。

→はまるーまで実施した単発イベントのようなものを定期的に開催し、高齢者の外出の機会を積極的に作っていく必要がある。

- ・通いの場に来る高齢者の中には、認知症や合理的配慮を必要とする人もいるが、他の参加者がいる中のサポートや安全面の確保が難しいという悩みもある。

- ・1人ひとりにあった居場所を地域内に作っていくことが大切であるという点はメンバーの総意としてまとまる。

以上